

表1-3 回答者の属性 (その2)

平均支出額	実数		学部別												学年別				性別		住居別	
	実数	%	神	文	社会	法	経済	商	理工	総政	人福	教育	国際	1年	2年	3年	4年	男性	女性	自宅	自宅外	
1万円未満	71	6.5	0	15	9	13	3	8	6	4	2	7	4	33	13	14	11	27	44	70	1	
1万円～2万円未満	141	12.9	0	33	18	20	23	9	7	5	13	5	8	47	44	25	25	57	84	131	10	
2万円～3万円未満	171	15.7	1	32	19	23	21	23	17	14	5	13	3	59	43	44	25	67	104	167	4	
3万円～4万円未満	143	13.1	0	29	19	13	24	16	6	12	9	8	7	38	27	38	40	55	88	134	9	
4万円～5万円未満	101	9.3	0	11	17	9	11	9	8	15	7	11	3	23	18	21	39	37	64	90	11	
5万円～6万円未満	138	12.7	1	23	15	14	20	20	9	18	9	7	3	30	28	32	49	63	75	117	21	
6万円～7万円未満	29	2.7	0	4	1	8	3	6	0	3	1	2	1	3	5	13	8	7	22	16	13	
7万円～8万円未満	35	3.2	0	4	2	2	8	3	3	5	4	3	1	8	6	9	12	21	14	20	15	
8万円～9万円未満	51	4.6	0	10	5	4	8	10	1	5	3	3	2	11	12	12	16	28	23	16	34	
9万円～10万円未満	16	1.5	0	0	3	2	2	3	2	1	1	1	1	6	4	1	5	9	7	0	16	
10万円～11万円未満	96	8.8	0	10	13	11	13	11	5	12	6	9	6	24	17	17	38	45	51	12	84	
11万円～12万円未満	17	1.6	0	4	2	3	0	2	2	1	1	1	0	5	4	2	6	9	8	1	16	
12万円～13万円未満	26	2.4	1	4	4	2	1	1	2	7	3	0	1	7	8	3	8	9	17	0	26	
13万円～14万円未満	18	1.7	0	0	7	0	2	2	2	2	1	0	2	6	5	3	4	9	9	1	17	
14万円～15万円未満	7	0.6	0	1	0	2	0	0	0	3	1	0	0	1	4	2	0	3	4	0	7	
15万円～16万円未満	22	1.9	0	5	3	2	1	5	2	3	1	0	0	2	6	4	10	8	14	3	18	
16万円～17万円未満	2	0.2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	2	
17万円～18万円未満	1	0.1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	
18万円～19万円未満	1	0.1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	
20万円以上	5	0.5	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	1	1	2	1	1	2	3	1	4	

II 調査結果

1. 入学動機

(1) 大学への進学動機 (Q10)

「Q10-1 あなたが大学に進学しようと思ったのはなぜですか」とたずねた回答結果を図1-1-1、図1-1-2に示す。第1位となった項目を多い順に並べると、1位「教養や視野の拡大」25.2%、2位「就職に有利」14.8%、3位「専門知識、技術の修得」14.4%、4位「将来の安定した生活」12.2%、5位「皆が行くから」7.0%、6位「就職に必要な勉強をする」5.9%、7位「青春を楽しむ」5.0%となっている。第2位となった項目は、1位から4位までは同じ順番であるが、5位に「青春を楽しむ」11.3%、6位「人格形成」7.4%がランクアップし、続いて7位「就職に必要な勉強をする」、8位「皆が行くから」の順となっていることが特筆される。

第1位を所属学部別にみた場合、上位3つの理由は、神学部では全体平均の順番と異なって「将来の安定した生活」50%、「専門知識、技術の修得」「皆が行くから」25.0%の順となっているが、集計数が少ないため参考までに止める。文学部では、「教養や視野の拡大」36.2%、「専門知識、技術の修得」11.7%、「就職に有利」10.6%。社会学部は、「教養や視野の拡大」22.9%、「将来の安定した生活」17.1%、「就職に有利」15.7%。の順で「将来の安定した生活」が第2位となっている。法学部は「専門知識、技術の修得」23.4%、「教養や視野の拡大」18.8%、「就職に有利」16.4%の順で、「専門知識、技術の修得」が第1位になっている。経済学部は「就職に有利」22.3%、「教養や視野の拡大」17.3%、「将来の安定した生活」15.1%の順で「就職に有利」が1位といったところに特徴がある。商学部は、全体平均と同じ順で「教養や視野の拡大」30.7%、「就職に有利」15.7%、「専門知識、技術の修得」13.4%。理工学部は「専門知識、技術の修得」21.3%、「就職に有利」17.3%、「将来の安定した生活」13.3%の順で法学部同様に「専門知識、技術の修得」が1位となっている。総合政策学部は、「教養や視野の拡大」36.0%、「就職に有利」17.1%、「将来の安定した生活」13.5%。人間福祉学部は「教養や視野の拡大」19.4%、「専門知識、技術の修得」17.9%、「課外活動にはげむ」11.9%の順で「課外活動にはげむ」が第3位に入っている。教育学部は「専門知識、技術の修

Q10-1. あなたが大学に進学しようと思ったのはなぜですか。次の中から入学時に重視した順に3つ選んで回答欄に番号で答えてください。

- | | | |
|-------------|------------|---------------|
| 1 教養や視野の拡大 | 2 人格形成 | 3 専門知識、技術の修得 |
| 4 学問研究 | 5 就職に有利 | 6 就職に必要な勉強をする |
| 7 将来の安定した生活 | 8 青春を楽しむ | 9 課外活動にはげむ |
| 10 皆が行くから | 11 家族がすすめる | 12 先生がすすめる |
| 13 特に理由はない | 14 その他 () | |
- 第1位 [] 第2位 [] 第3位 []

図1-1-1 進学動機 第1位 (Q10-1)

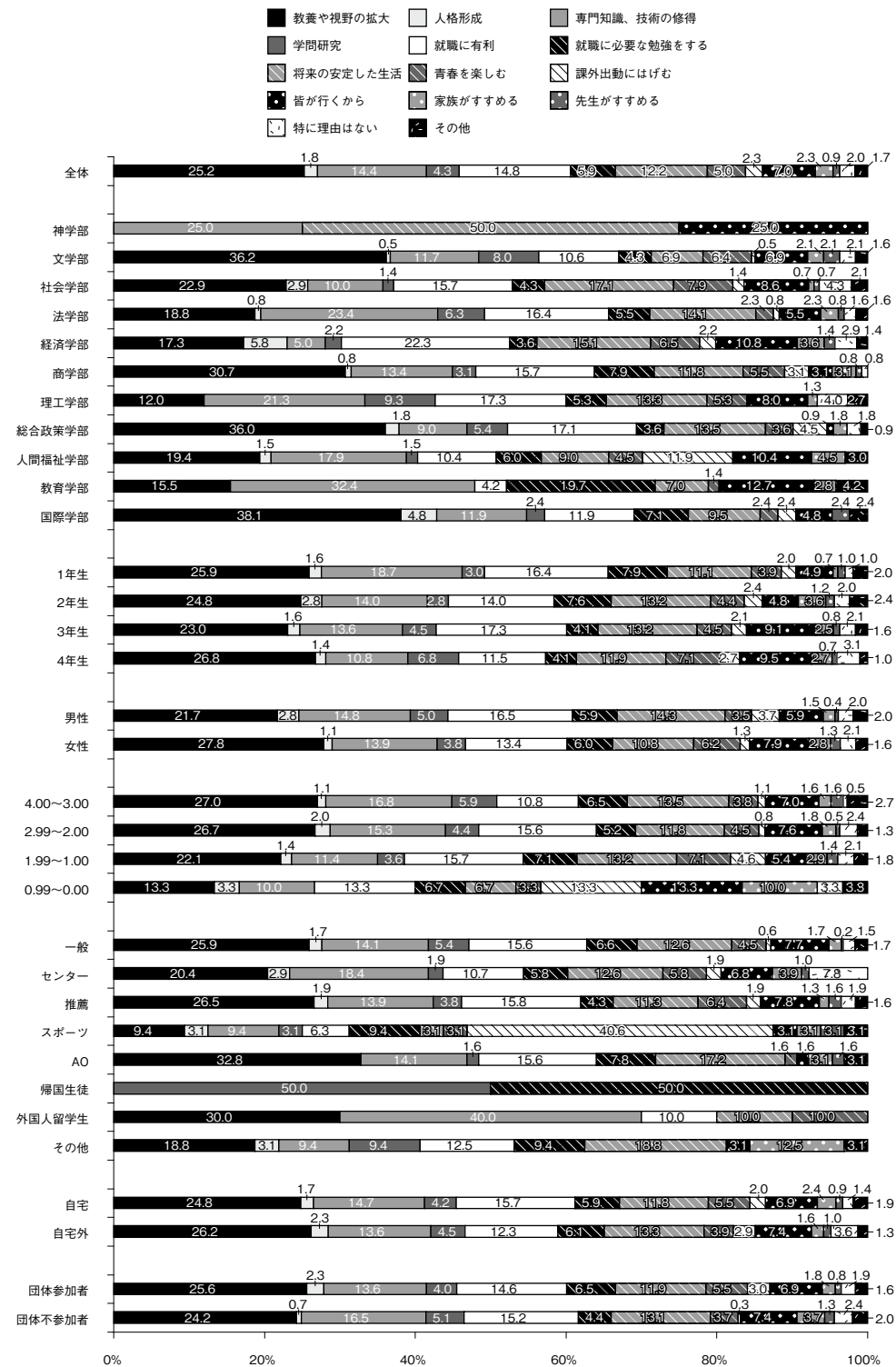
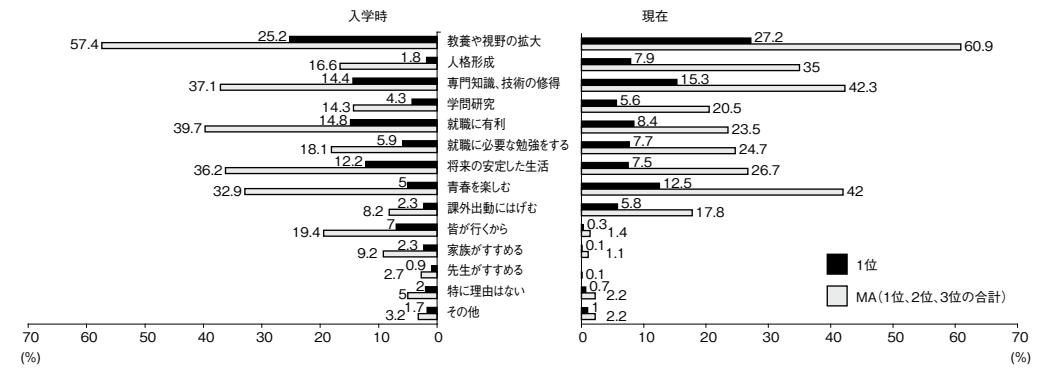


図1-1-2 進学動機 M.A.と第1位の比較 (Q10)



得」32.4%、「就職に必要な勉強をする」19.7%、「教養や視野の拡大」15.5%の順で法学部、理工学部と近い結果となっている。国際学部は、全体平均と同じ順で「教養や視野の拡大」38.1%、「専門知識、技術の修得」・「就職に有利」11.9%となっており、各学部の1位がそれぞれ異なっており、学部毎の特徴が見受けられる。

学年別にみた場合、1～3年生が1位「教養や視野の拡大」、2位「専門知識、技術の修得」、3位「就職に有利」、4位「将来の安定した生活」の順であるが、4年生は「教養や視野の拡大」、「将来の安定した生活」、「就職に有利」、「専門知識、技術の修得」の順となっており、1～3年生と4年生で若干の違いが見られる。

男女別では、差異はほぼみられない。

GPA別でみたところ、4.00～3.00の成績帯では、「教養や視野の拡大」27.0%、「専門知識、技術の修得」16.8%、「将来の安定した生活」13.5%、「就職に有利」10.8%。2.99～2.00の成績帯では「教養や視野の拡大」26.7%、「就職に有利」15.6%、「専門知識、技術の修得」15.3%、「将来の安定した生活」11.8%。1.99～1.00の成績帯では、「教養や視野の拡大」22.1%、「就職に有利」15.7%、「将来の安定した生活」13.2%、「専門知識、技術の修得」11.4%。0.99～0.00の成績帯では「教養や視野の拡大」・「就職に有利」・「課外活動にはげむ」・「皆が行くから」13.3%となっている。成績帯が低くなるにしたがって、進学理由は分散する傾向が見られる。

入試形態毎にみた場合、一般入試、センター利用入学試験、推薦入学、AO入学試験は「教養や視野の拡大」、「就職に有利」、「専門知識、技術の修得」、「将来の安定した生活」が上位4つの項目となっているが、スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験については、「課外活動にはげむ」に続いて「教養や視野の拡大」・「専門知識、技術の修得」・「就職に必要な勉強をする」となっているところが、全体平均と大きく異なっている。

住居別にみた場合、自宅、自宅外ともに上位項目は「教養や視野の拡大」、「専門知識、技術の修得」、「就職に有利」、「将来の安定した生活」であり差異は認められない。

団体への所属の有無でみた場合、全体平均との差異はなかった。

「Q10-2 それでは、現在、あなたが重視しているのはどれですか」とたずねた回答結果を、図1-1-2、図1-1-3に示す。

第1位となった項目を多い順に並べると、「教養や視野の拡大」27.2%、第2位は「専門知識・技術の修得」15.3%、第3位は「青春を楽しむ」12.5%、ついで「就職に有利」8.4%、「人格形成」7.9%、「就職に必要な勉強をする」7.7%、「将来の安定した生活」7.5%となっている。入学時と比較すると「青春を楽しむ」が全体の第3位にランクアップしている。また入学時と比較して「就職に有利」が14.3%から8.3%に半減しているところに大きな変化がみられる。これは類型化した図1-1-4にある「青春型」と「学歴型」を参照すれば明確である。

所属学部毎に上位の3位までをみると、文学部は全体平均の同じ順で「教養や視野の拡大」31.6%、「専門知識、技術の修得」17.1%、「青春を楽しむ」13.9%となっており、社会学部は「教養や視野の拡大」32.9%、「青春を楽しむ」20.0%、「就職に有利」8.6%の順になっており、「専門知識、技術の修得」がランクダウンしている。法学部は全体平均の同じ順で「教養や視野の拡大」30.5%、「専門知識、技術の修得」17.2%、「就職に必要な勉強をする」・「青春を楽しむ」32.9%、「青春を楽しむ」20.0%、「就職に有利」12.9%の順になっており、「専門知識、技術の修得」がランクダウンしている。商学部は、全体平均と同じ順で「教養や視野の拡大」31.0%、「専門知識、技術の修得」14.3%、「青春を楽しむ」12.7%、理工学部は「専門知識、技術の修得」29.3%、「教養や視野の拡大」「就職に有利」が同率で12.0%の順で、総合政策学部は「教養や視野の拡大」28.8%、「専門知識、技術の修得」12.6%、「青春を楽しむ」10.8%の順である。人間福祉学部は「教養や視野の拡大」23.9%、「専門知識、技術の修得」17.9%、「課外活動に励む」10.4%の順で、「就職に必要な勉強をする」がランクダウンしている。教育学部は「専門知識、技術の修得」35.2%、「人格形成」11.3%、「教養や視野の拡大」「就職に必要な勉強をする」「青春を楽しむ」が同率で9.9%の順で、国際学部は「教養や視野の拡大」42.9%、「就職に必要な勉強をする」11.9%、「専門知識、技術の修得」9.5%の順となっている。

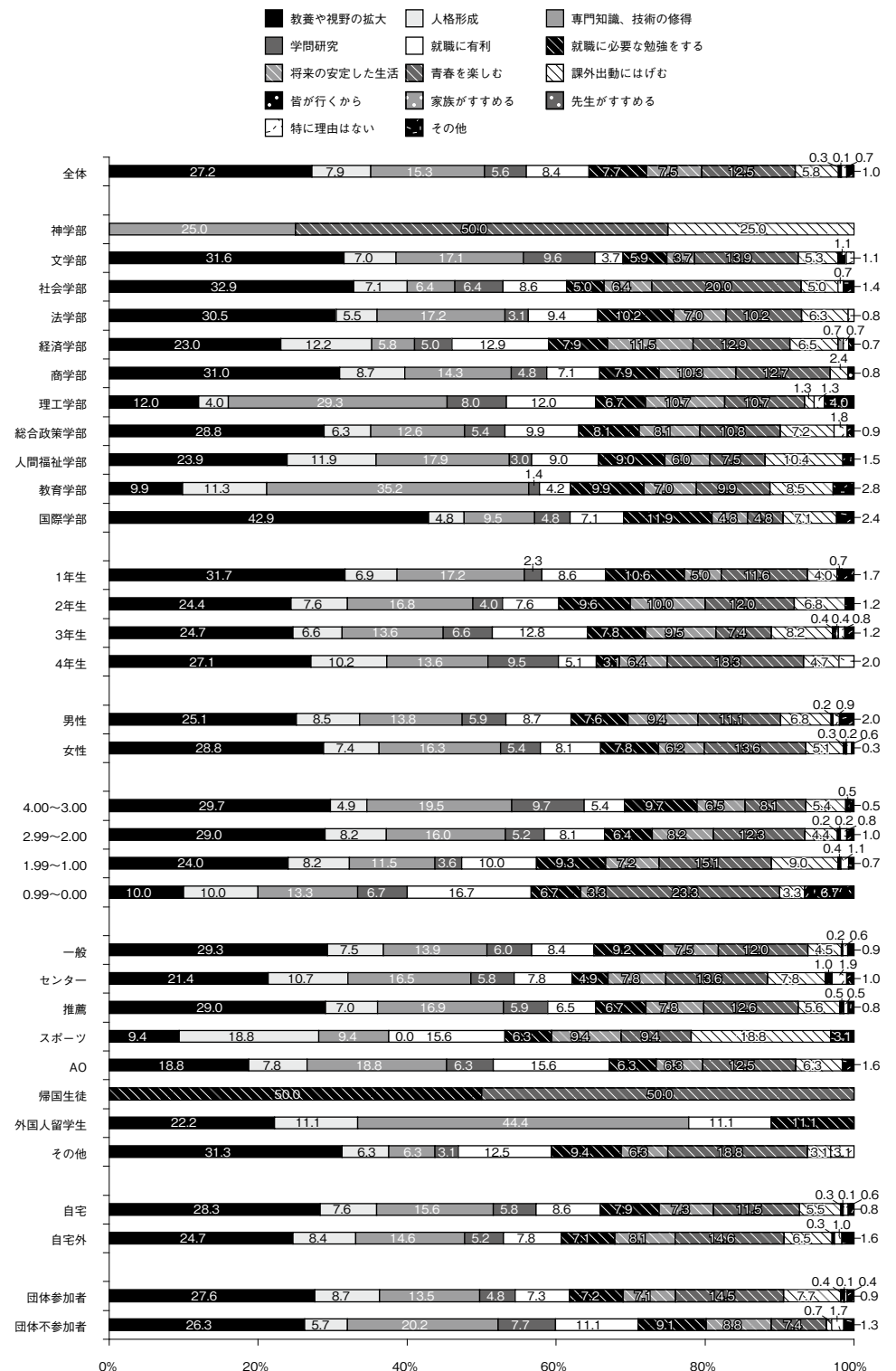
学年毎に変化をみた場合、「教養や視野の拡大」1年生31.7%、2年生24.4%、3年生24.7%、4年生27.1%「専門知識、技術の修得」1年生17.2%、2年生16.8%、3年生・4年生13.6%、「青春を楽しむ」1年生11.6%、2年生12.0%、3年生7.4%、4年生18.3%となっており、「青春を楽しむ」では3年生で一旦低下するが、4年生で最高値となっており、学年が進むにつれて上昇する傾向にあることがわかる。3年生では「青春を楽しむ」の割合より「就職に有利」12.8%、「将来の安定した生活」9.5%が高くなっており、他の学年と異なっている。これは就職活動が始まることを意識した結果だと推測する。

男女別にみた場合、大きな差異はみられない。

Q10-2. それでは、現在、あなたが重視しているのはどれですか。Q10-1の項目から、重視している順に3つ選んで回答欄に番号で答えてください。

第1位〔 〕 第2位〔 〕 第3位〔 〕

図1-1-3 現在の重視項目 第1位 (Q10-2)



GPAでみた場合、全体平均と上位3位までを比較した場合、GPA4.00～3.00の成績帯では、「教養や視野の拡大」29.7%、「専門知識、技術の修得」19.5%、「学問研究」「就職に必要な勉強をする」9.7%の順で「学問研究」がランクアップし、2.99～2.00の成績帯では「教養や視野の拡大」29.0%、「専門知識、技術の修得」16.0%、「青春を楽しむ」12.3%の順で「青春を楽しむ」がランクアップし、1.99～1.00の成績帯では、「教養や視野の拡大」24.0%、「青春を楽しむ」15.1%、「専門知識、技術の修得」11.5%の順で同様に「青春を楽しむ」が更にランクアップし、0.99～0.00の成績帯では「青春を楽しむ」23.3%、「就職に有利」16.7%、「専門知識、技術の修得」13.3%となっており、ついに「青春を楽しむ」がトップに躍り出ている。「青春を楽しむ」の割合はGPAが下がるにつれて増加する傾向がみられる。

入試制度毎にみたときに、一般入試、センター利用入学試験、推薦入学は「教養や視野の拡大」、「専門知識、技術の修得」、「青春を楽しむ」が上位3つの理由となっている。AO入学試験については「青春を楽しむ」12.5%を「就職に有利」15.6%が上まわる。スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験については、「課外活動にはげむ」18.8%が入学時の第1位であったが、「人格形成」が18.8%と第1位に並んでいる点は興味深い。

住居別および団体への所属の有無でみた場合、全体平均との大きな差異がない。

その他自由記述項目について着目すると、「大学進学があたりまえと思っていた」、「友人を作る」という記述が多くみられた。また、「将来に向けての準備期間として」という理由も多くみられた。

なお、Q10-1、Q10-2の選択肢15を次の5つに類型化したものを図1-1-4～図1-1-10に示す。この質問項目ならびに類型化は、1974年4月に日本リクルートセンター（当時）が実施した報告書「進学動機調査'75」を借用したものである。

教養型：「教養や視野の拡大」、「立派な人格形成」

勉学型：「専門知識、技術の修得」、「学問研究」

学歴型：「就職に有利」、「就職に必要な勉強をする」、「将来の安定した生活」

青春型：「青春を楽しむ」、「課外活動にはげむ」

雷同型：「皆が行くから」、「家族がすすめるから」、「先生がすすめる」

その他：「特に理由はない」、「その他」、「無回答」

図1-1-4 進学動機の種類別（全体）（Q10）

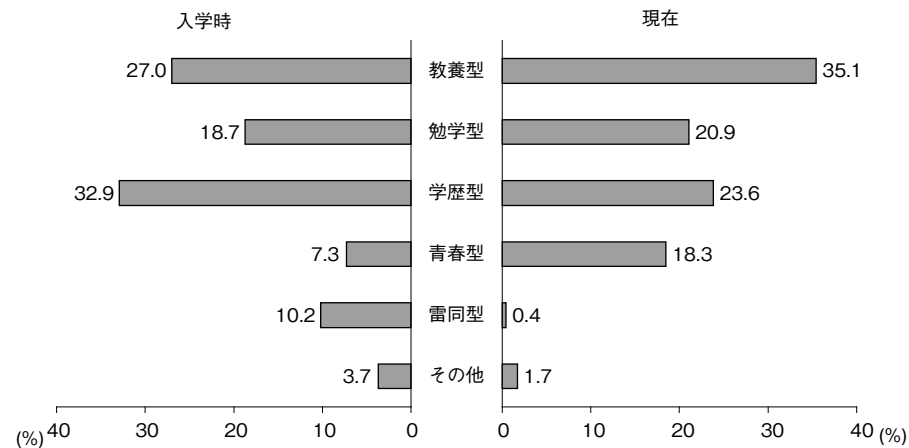


図1-1-5 進学動機の種類別（学部別）（Q10）

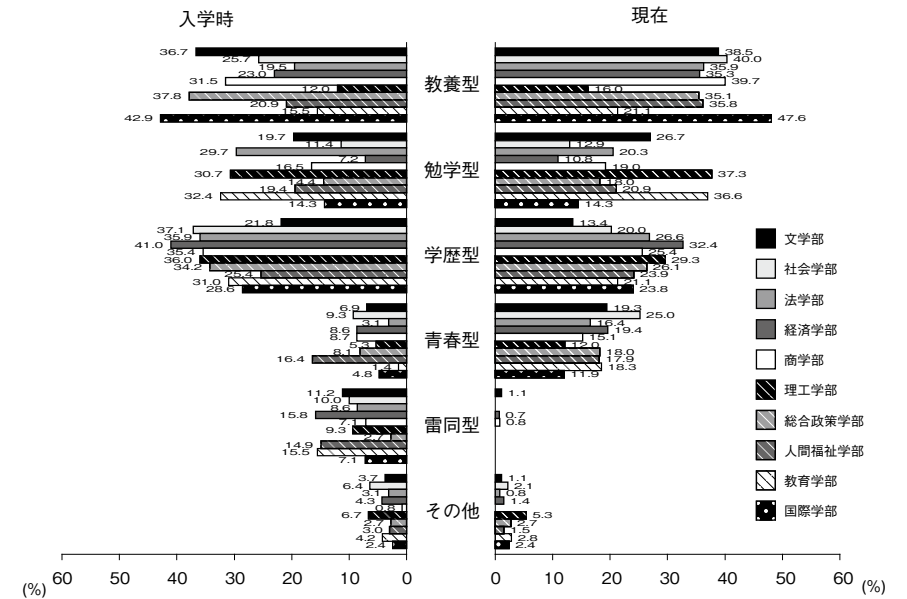


図1-1-6 進学動機の種類別（学年別）（Q10）

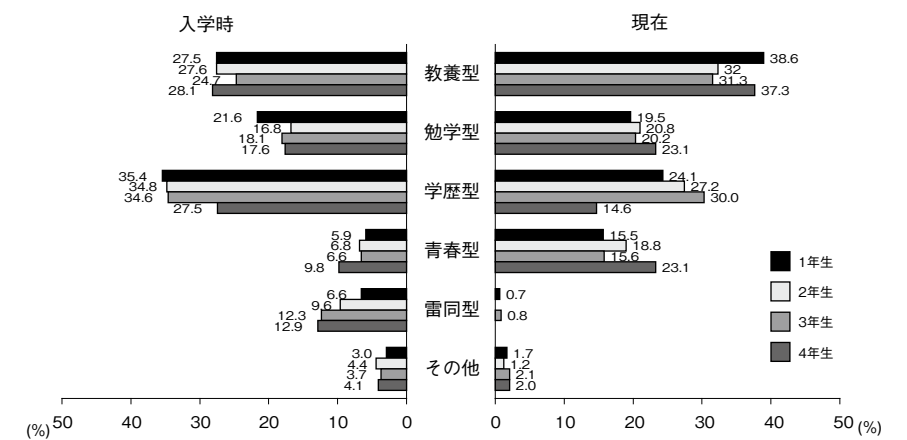


図1-1-7 進学動機の種類別（男女別）（Q10）

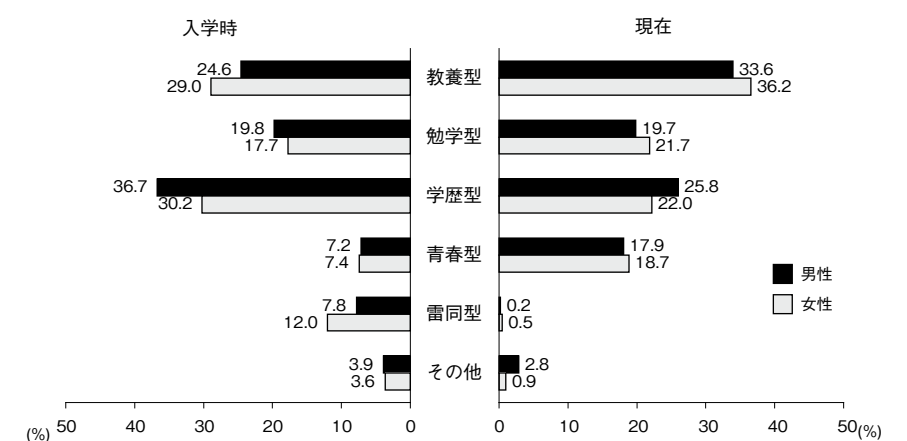


図1-1-8 進学動機の種類別 (GPA別) (Q10)

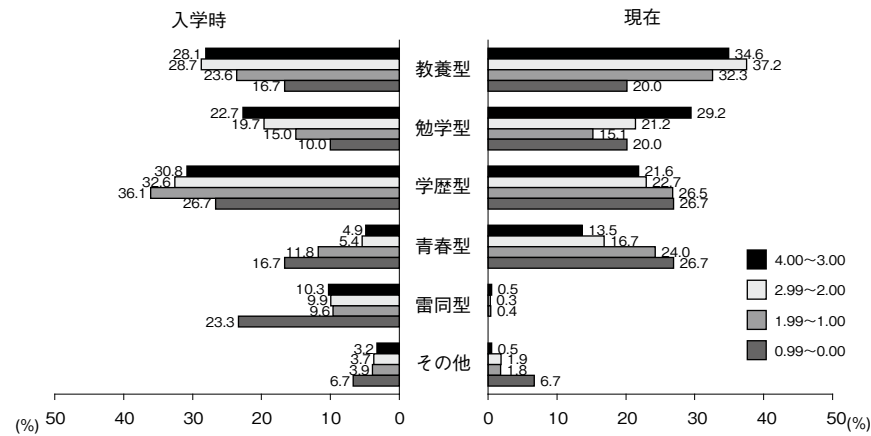


図1-1-9 進学動機の種類別 (自宅・自宅外別) (Q10)

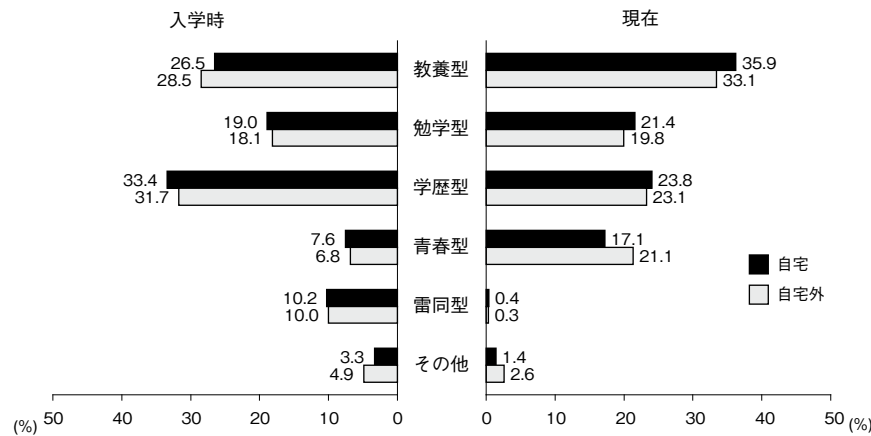
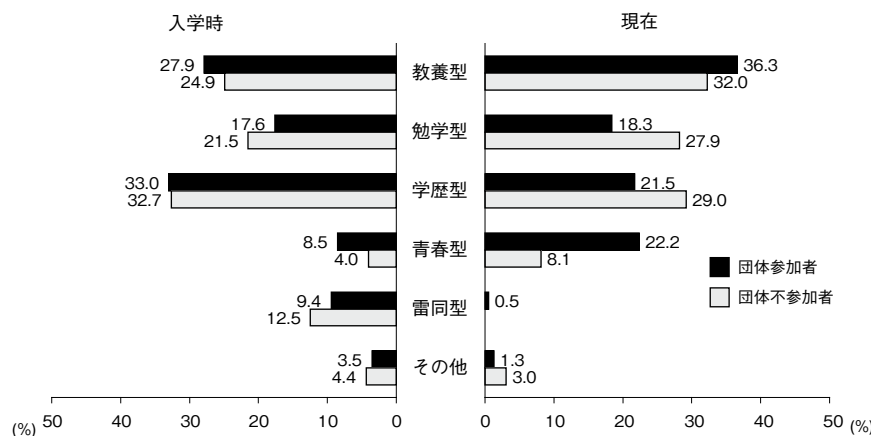


図1-1-10 進学動機の種類別 (団体参加者・不参加者別) (Q10)



(2) 関西学院大学への進学理由 (Q11)

Q11-1 では、「あなたが関西学院大学を選んだのはなぜですか」とたずねた。図1-2-1、図1-2-2に回答結果を示す。第1位の多い順に「学部・学科の内容に興味があった」30.6%、「社会的な評判が良い」12.2%、「就職実績が良い」10.8%、「偏差値」9.7%、「自宅から通える」8.3%、「キャンパスがきれい」6.9%、「周囲に勧められた」6.3%となっている。なお、1位と2位の合計では、第3位までは、同じであるが、第4位の「自宅から通える」第5位「キャンパスがきれい」第6位「偏差値」の順となっている。

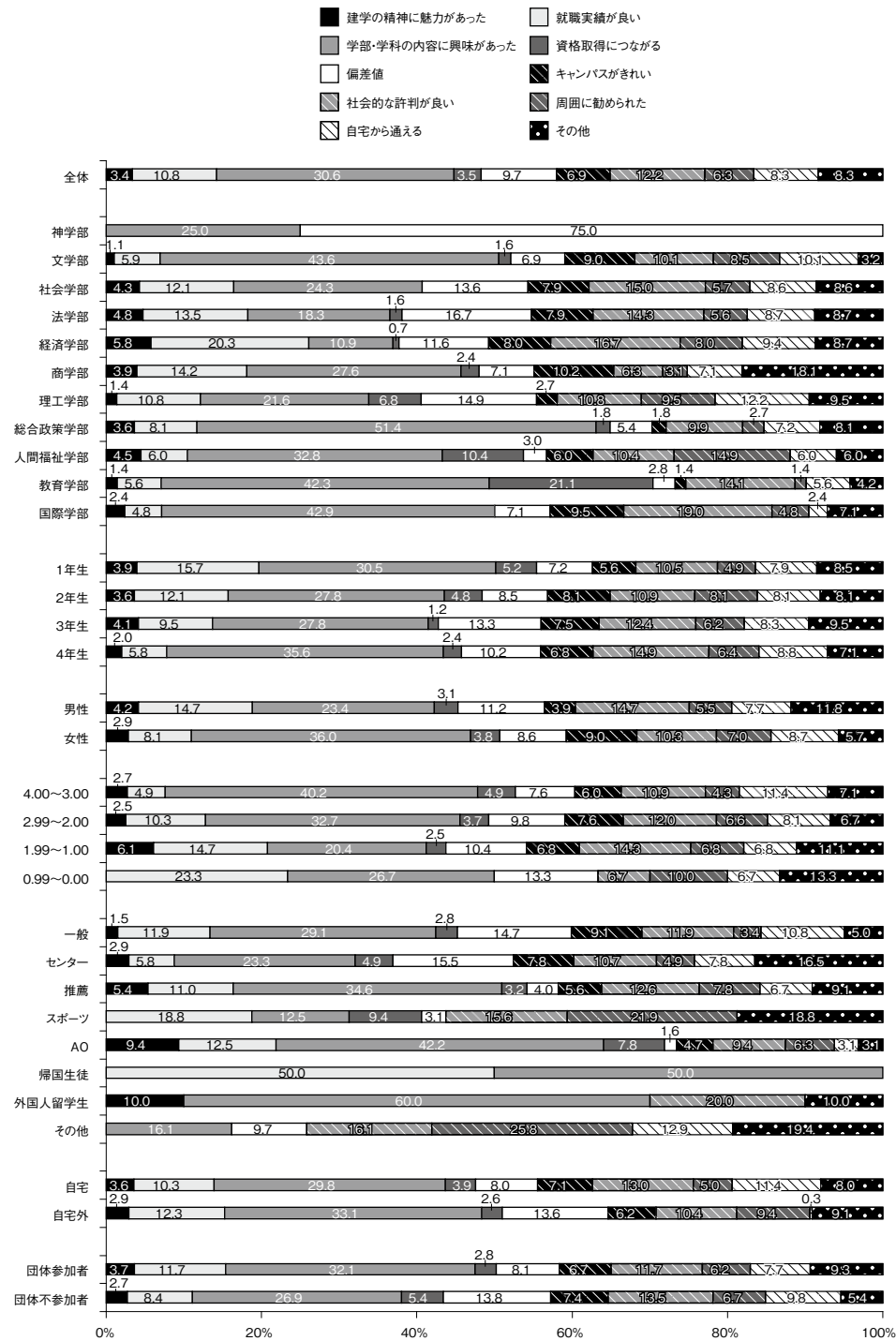
これを所属学部別にみたときに、神学部の4名は「偏差値」3名、「学部・学科の内容に興味があった」1名となっている。文学部では、「学部・学科の内容に興味があった」43.6%、「社会的な評判が良い」・「自宅から通える」10.1%、社会学部は、「学部・学科の内容に興味があった」24.3%、「社会的な評判が良い」15.0%、「偏差値」13.6%、「就職実績が良い」12.1%、法学部は、「学部・学科の内容に興味があった」18.3%、「偏差値」16.7%、「社会的な評判が良い」14.3%、「就職実績が良い」13.5%、経済学部は、「就職実績が良い」20.3%、「社会的な評判が良い」16.7%、「偏差値」11.6%、「学部・学科の内容に興味があった」10.9%、商学部は、「学部・学科の内容に興味があった」27.6%、「その他」18.1%、「就職実績が良い」14.2%、「キャンパスがきれい」10.2%、理工学部は、「学部・学科の内容に興味があった」21.6%、「偏差値」14.9%、「自宅から通える」12.2%、「社会的な評判が良い」・「就職実績が良い」10.8%、総合政策学部は「学部・学科の内容に興味があった」51.4%となっている。人間福祉学部は、「学部・学科の内容に興味があった」32.8%、「周囲に勧められた」14.9%、「社会的な評判が良い」・「資格取得につながる」10.4%、教育学部は、「学部・学科の内容に興味があった」42.3%、「資格取得につながる」21.1%、「社会的な評判が良い」14.1%、国際学部は、「学部・学科の内容に興味があった」42.9%、「社会的な評判が良い」19.0%、「キャンパスがきれい」9.5%となっており、学部毎に特徴が見られる興味深い結果であった。

学年毎にみた場合、1年生では、「学部・学科の内容に興味があった」30.5%、「就職実績が良い」15.7%、「社会的な評判が良い」10.5%、2年生は、「学部・学科の内容に興味があった」27.8%、「就職実績が良い」12.1%、「社会的な評判が良い」10.9%、3年生は、「学部・学科の内容に興味があった」27.8%、「偏差値」13.3%、「社会的な評判が良い」12.4%、4年生は、「学部・学科の内容に興味があった」35.6%、「社会的な評判が良い」14.9%、「偏差値」10.2%となっており、(1年生・2年生)、(3年生・4年生)と同じ傾向があるが、グループ間の違いは選んだ理由に「偏差値」

Q11-1. あなたが関西学院大学を選んだのはなぜですか。次の中から重視した順に2つ選んで回答欄に番号で答えてください。

- | | |
|-------------------|-------------|
| 1 建学の精神に魅力があった | 2 就職実績が良い |
| 3 学部・学科の内容に興味があった | 4 資格取得につながる |
| 5 偏差値 | 6 キャンパスがきれい |
| 7 社会的な評判が良い | 8 周囲に勧められた |
| 9 自宅から通える | 10 その他 () |

図1-2-1 本学への進学理由 1位 (Q11-1)



が入っている点異なる。

男女別にみた場合、男性は「学部・学科の内容に興味があった」23.4%、「社会的な評判が良い」・「就職実績が良い」14.7%、「その他」11.8%、「偏差値」11.2%となっており、女性は「学部・学科の内容に興味があった」36.0%、「社会的な評判が良い」10.3%、「キャンパスがきれい」9.0%、「自宅から通える」8.7%と性差がみられた。

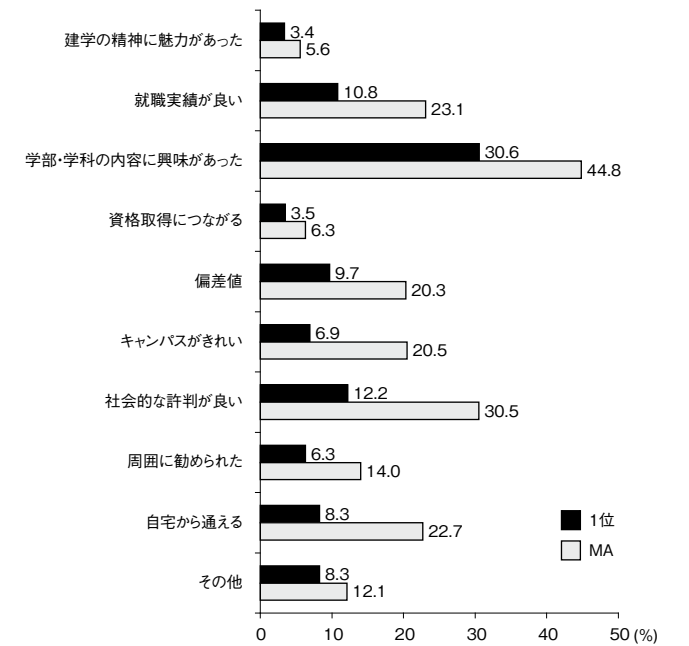
GPAでみた場合、GPA4.00～3.00の群については、「学部・学科の内容に興味があった」40.2%、「自宅から通える」11.4%、「社会的な評判が良い」10.9%、2.99～2.00の群では「学部・学科の内容に興味があった」32.7%、「社会的な評判が良い」12.0%、「就職実績が良い」10.3%、1.99～1.00の群では、「学部・学科の内容に興味があった」20.4%、「就職実績が良い」11.9%、「自宅から通える」10.8%、0.99～0.00の群では「学部・学科の内容に興味があった」23.3%、「その他」16.5%、「偏差値」13.3%となっており、成績帯別にも僅かな違いがみられた。

入試種別でみた場合、一般入学試験は「学部・学科の内容に興味があった」29.1%、「偏差値」14.7%、「社会的な評判が良い」・「就職実績が良い」11.9%、「自宅から通える」10.8%、センター利用入試は「学部・学科の内容に興味があった」23.3%、「その他」16.5%、「偏差値」15.5%、「社会的な評判が良い」10.7%、推薦入学は「学部・学科の内容に興味があった」34.6%、「社会的な評判が良い」12.6%、「就職実績が良い」11.0%、AO入学試験は「学部・学科の内容に興味があった」42.2%、「就職実績が良い」12.5%、「建学の精神に魅力があった」・「社会的な評判が良い」9.4%、スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験は「周囲に勧められた」21.9%、「就職実績が良い」・「その他」18.8%、「社会的な評判が良い」15.6%、「学部・学科の内容に興味があった」12.5%となっており、スポーツに優れた者を対象とした入試で入学した学生については、全体平均との差異が明らかであった。

住居別にみた場合の質問については、「学部・学科の内容に興味があった」が自宅生、自宅外生ともに第1位であり、自宅生については「社会的な評判が良い」13.0%、「自宅から通える」11.4%、「就職実績が良い」10.3%、自宅外生は「偏差値」13.6%、「就職実績が良い」12.3%、「社会的な評判が良い」10.4%と違いが見られた。

また、この質問についての自由記述項目は多く寄せられた。「推薦入学者だから」という回答

図1-2-2 本学への進学理由 (Q11-1)



を除くと、最も多かった回答は「滑り止めだった」という回答であり、次いで多かった回答は、「身近な人が通っていた(る)から」、「部活動」、「自分に合った入試があった」という回答が多かった。教育に関する内容では、「ジョイント・ディグリー、MDS」「国際プログラムが充実しているから」という回答が寄せられた。

続く、「Q11-2 あなたはどのような形で関西学院大学のことを知りましたか」という質問については、「両親や親類」48.4%、「高等学校や予備校の先生」56.6%「友人や先輩」28.7%、「受験雑誌」21.9%、「難易ランキング表」29.6%という結果であった。

この項目についての自由記述であるが、ピアノの先生(クリスチャンだった)というものや、親族が卒業生や在学生であるといったもの。近隣であるために、幼少の頃から知っていたというものが多く、その他では、オープンキャンパスや高校の資料、関学の説明会(高校へ入試課の方が来てくれた)、地方説明会など入試広報によるものなどもみられた。

Q11-2. あなたはどのような形で関西学院大学のことを知りましたか。あてはまるものをすべて選んでください。	
1 両親や親類	2 高等学校や予備校の先生
3 友人や先輩	4 受験雑誌など
5 難易ランキング表	6 その他 ()

「Q11-3 あなたの関西学院大学の志望順位は何番目でしたか」とたずねた回答結果を図1-2-3に示す。全体の割合をみると、第一志望が59.7%、第二志望が20.5%、それ以外が19.8%という結果になっている。

これを学部別にみた時に、神学部では第一志望が50.0%、第二志望25.0%、それ以外25.0%、文学部は第一志望59.6%、第二志望25.5%、それ以外14.9%、社会学部は第一志望63.6%、第二志望18.6%、それ以外17.9%、法学部は第一志望53.5%、第二志望24.0%、それ以外22.5%、経済学部は第一志望61.9%、第二志望15.1%、それ以外23.0%、商学部は第一志望61.7%、第二志望17.2%、それ以外21.1%、理工学部は第一志望45.3%、第二志望14.7%、それ以外40.0%、総合政策学部は第一志望55.0%、第二志望24.3%、それ以外20.7%、人間福祉学部は第一志望76.1%、第二志望14.9%、それ以外9.0%、教育学部は第一志望63.4%、第二志望26.8%、それ以外9.9%、国際学部は第一志望59.5%、第二志望19.0%、それ以外21.4%となっている。ここで注目されるのは、第二志望がその他に比べて数値が低い学部が理工学部14.7%、人間福祉学部14.9%、経済学部15.1%、商学部17.2%、国際学部19.0%であることである。これらは学内併願順位でも高い学部であり、偏差値ランキングでも高い学部である。国公立併願層の割合が高いことがそのまま反映されていると見て良いだろう。

学年別にみた場合、1年生は第一志望61.1%、第二志望16.7%、その他22.2%、2年生は第一志望58.0%、第二志望20.0%、その他22.0%、3年生は第一志望60.5%、第二志望23.0%、第三志望16.5%、4年生は第一志望59.1%、第二志望22.6%、第三志望18.2%となっている。上位層の合格割

合が高くなった2年生から、「その他」の割合が「第二志望」の割合を上まわる傾向がみられる。

男女別にみた場合、男性の第一志望が58.3%、第二志望19.8%、その他22.0%、女性が第一志望60.7%、第二志望21.0%、その他18.3%となっており、女性の志望度の高さがわかる。

GPAでみた場合、GPA4.00～3.00については第一志望54.1%、第二志望23.8%、その他22.2%、2.99～2.00については第一志望57.8%、第二志望21.8%、その他20.4%、1.99～1.00については第一志望68.6%、第二志望16.1%、その他15.4%、0.99～0.00については第一志望50.0%、第二志望16.7%、その他33.3%となっている。成績が下位になればなるほど志望度が高くなる。ただ、最下位の群については、志望度が最も低い。最も低いために成績に影響しているのか、いわゆる仮面浪人を含むのか。この点については不明である。

入試制度別にみた場合、センター利用入試が第一志望16.5%、第二志望33.0%、その他50.5%、一般入試が第一志望40.5%、第二志望30.4%、その他29.1%、外国人留学生入試は第一志望80.0%、第二志望20.0%、AO入試は第一志望82.8%、第二志望12.5%、その他4.7%、スポーツ入試は第一志望87.5%、第二志望12.5%、推薦入学は第一志望88.5%、第二志望6.7%、その他4.8%という結果になっており、入試制度毎の志願者の特色を示した結果になっている。

住居別にみた場合、自宅の第一志望62.5%、第二志望20.4%、その他17.1%、自宅外の第一志望52.8%、第二志望20.7%、その他26.5%となっており、「自宅通学者」の第一志望度が高い。本学への認知度との関連が類推される結果である。

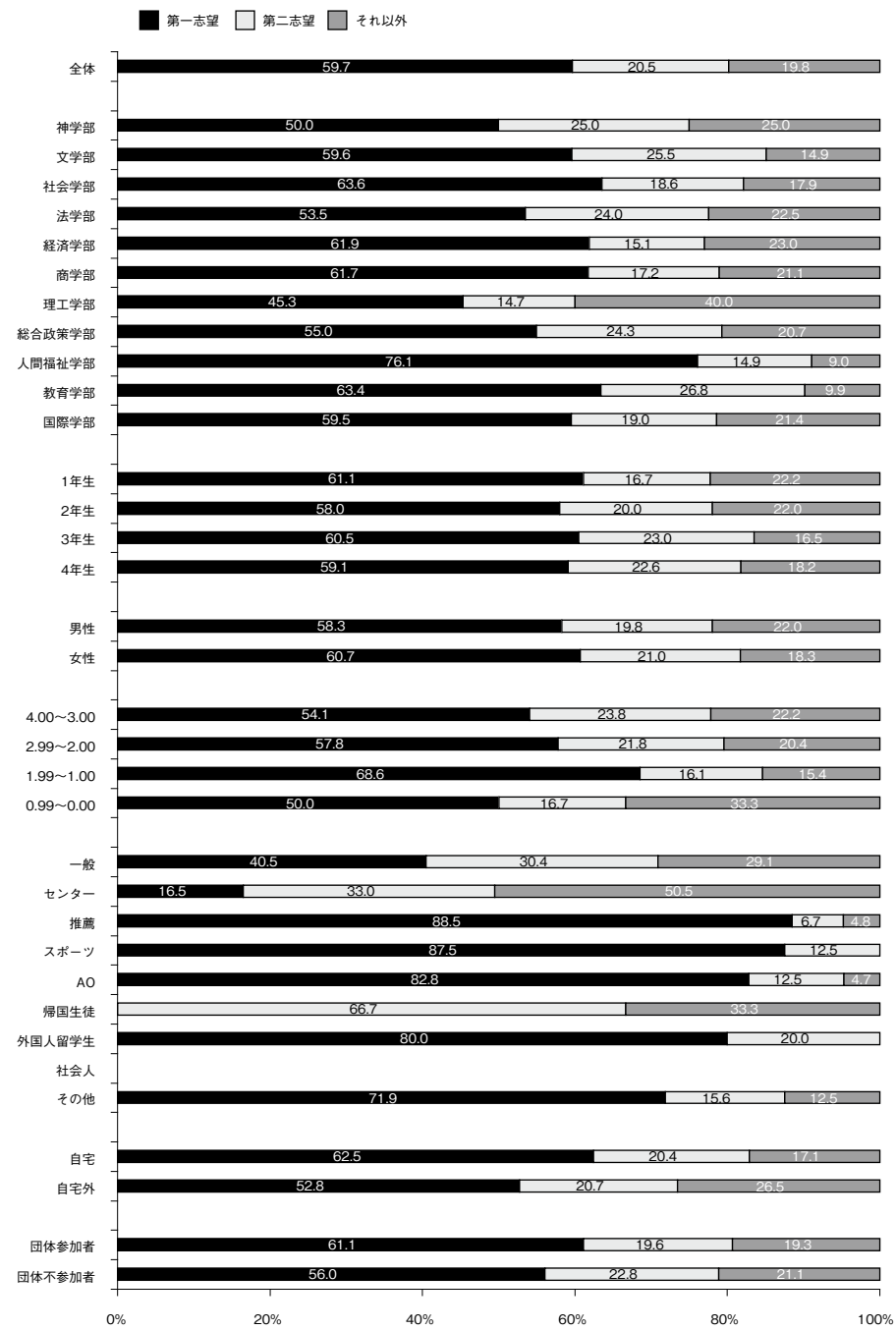
団体への所属の有無でみた場合、団体に所属している者は第一志望61.1%、第二志望19.6%、その他19.3%、入っていない者は第一志望56.0%、第二志望22.8%、その他21.1%となっている。

Q11-4では、Q11-3で関西学院大学を第二志望、または、その他を選んだ人に対して、併願大学を記述式でたずねた。結果は、概ね以下の通りであった。

まず国公立大学では、神戸大学111名、大阪大学46名、広島大学12名、大阪教育大学11名、京都大学・岡山大学9名、九州大学6名、北海道大学、東北大学・名古屋大学4名、東京大学3名。公立大学では大阪市立大学42名、神戸市外国語大学20名、大阪府立大学12名という結果。私立大学では、同志社大学33名、早稲田大学17名、関西大学10名、立命館大学7名、慶應義塾大学4名という結果になった。

Q11-3. あなたの関西学院大学の志望順位は何番目でしたか。		
1 第一志望	2 第二志望	3 それ以外
Q11-4. Q11-3で、2か3を選んだ方にお聞きします。		
あなたの第一志望であった大学名をお聞かせください。		
() 大学		
また、その大学を第一志望としていた理由をお聞かせください。		
()		

図1-2-3 本学への志望順位 (Q11-3)



入学動機のみとめ

今回の調査においては、これまで継続して実施している「Q10-1 あなたが大学に進学しようと思ったのはなぜですか。」「Q10-2 それでは、現在、あなたが重視しているのはどれですか。」という2つの質問に加え、新たに「Q11-1 あなたが関西学院大学を選んだのはなぜですか。」「Q11-2 あなたはどのような形で関西学院大学のことを知りましたか。」「Q11-3 あなたの関西学院大学の志望順位は何番目でしたか。」「Q11-4 第一志望でない場合の第一志望大学」の4つの質問を加えた。

これまで継続して実施している質問については、経年の変化や、学部毎、学年別、性別、成績帯別、住居別、団体所属別の違いが大きくはみられなかった。しかしながら新たに実施した質問項目については、志願層の変化による学年毎の違いや、学部毎の違い、性別の違い、住居別の違いがはっきりとみることができた。

こうした違いは今後、学部毎の広報展開にあつて、重点をどのような部分において進めていくかの指標になるとともに、どのような層や地域をターゲットとして訴求していくかについても有効な資料であると言える。

また、本学の入試施策についても学年別にみた時に志願層が変化をしていることが判断できる。

本学が第一志望でなかった場合の第一志望校についての記述についても、これまで定かでなかった併願大学が明らかになった点は意義がある。今後、調査を続けるとすれば、これを経年変化で捉えることで、志願層の変化を見て取ることができるであろう。

今回の調査の結果をマーケティングの一助として入試施策を展開するという考え方もできるであろうし、さらに質問項目を追加して有効な情報を得ることも1つであろう。情報に基づく大学運営の1つの形として今回の結果が活用されることを期待したい。